

「ウエーイ w 後輩ちゃん見てるー? www」

「後輩ちやーんのオナネタの、メス穴人間に堕ちたセンパイと、アタシふたなり怪人マラピーチの、ドスケベビデオだよ♡」

「ピース、ピース、ダブルピース。あはセンパイ、アクメしてないのにアヘ顔ダブルピースが板についてきたね♡ 今日は後輩ちゃんに、センパイの立派なメス穴人間つぶりを紹介しまーす♡」

「あれから、がんがんファックして、センパイを完全洗脳したし。今でも記憶はあるけど、アタシと同じで、考え方が全然、変わっちゃってる♡」

「改造された最高の気分、みんなにも体験してほしいな。でも体験したら、一度と元に戻れなくなるかも。後悔しないって、保障はできるんだけど w」

「それじゃ恒例のオナネタ、はじまりはじまり♪」

「センパイ、行くね。カメラはこっちだよ。じや、キスから。んちゅ、ちゅ♡」

「センパイ、恥ずかしがってるの? キストめらうなんて、もうすっかりメスだよね。だーめ、ベロをしつかりと突きだして、キスのおねだりだよ♪」

「そう、ちやーんとできるじゃない」

「そんなセンパイの舌に、はふ、ご褒美のちゅぱキスしちゃう。んちゅ♡ 表情がとろんとしてきて、感じてる♡」

「アタシもだんだん、キス気持ひよくなつてきて、はふ。このままアタシのベロを、センパイの舌に絡めて、んれる、れりゅ♡」

「ほら、舌の粘膜同士がぬちゅぬちゅ、いやらしく絡んで、最高に気持ちよくない? センパイのおツユも舌も、んじゅじゅる♡ もっと頂戴、あふ、んぢゅる、いっぱい唾液すすらせてえ♡」

「んふ、みんなの見てる前で、このままセンパイの舌をアタシの舌で押し込んで、ちゅぶ、お口の中、犯しちゃう。強引に舌を突きこんで、センパイのお口を」

「ぐちゅぐちゅかき回してえ、レイプキスう♡ はふ♡アタシ、だんだん頭がぼうつて、してきひやつたあんちゅ、んれるお、アタシのツバもたっぷり飲んで、アタシもセンパイの貰うから、あふ、はふ、唾液の交換しよ、んじゅる♡」

「頭、ところどころでぼおつとしてる♡ センパイもアタシとのキスで、もっと感じて♡ もつと、気持ち良くなつていいし、んふ♡ 好き、好きい♡」

「やつとセンパイをアタシ好みに変えられた。もうセンパイのこと離さないよお、んちゅぶ、ちゅ」

「ずっとメス穴人間として、飼育してあげちやうから♡」

「ほら、アタシとセンパイのラブキス、みんなに見せつけやうし。ん、後輩ちゃん、ちゅば、んちゅ、見てる♡」

「あなたの大好きなセンパイは、アタシがメス穴ちゃんに洗脳改造して、完全支配♡ しゃつてるし♡ さ、メス穴ちゃん、このまま四つん這いになつて」

「そうだよ、ホント素直になつたね。お尻まで、ふりふりして、肛門にふたなりオチンポが欲しいってカンジ？ 言わなくともおねだりできて、マジ、えらい♡」

「たっぷりじらして、もっと欲しくなつてからのが、気持ちいいよ♡」

「でも、本当に切なそうだし、入れるかわりにお尻をアタシが舐めてあげるよお」

「ふーふー、息吹きかけただけで、穴がヒクヒク震えて、中に入れてもらいたがつてるし。まずは、んちゅ、剥きだしのお尻にキス♡ ちゅ、ちゅぱツ♡」

「もつと沢山キスしてあげる♡」

「だつて、アタシの可愛いメス穴ちゃんのお尻だし、んちゅば♡ 小ぶりなヒップの尻たぶにキスのシャワーするよ。ちゅッちゅツ♡ そしたらお尻の谷間に、れるお、舌をねつとり這わせて、上から下へ、んれるお、舐めていくよ」

「もちろんお尻の窄まりの上もね、れろろ♡ お尻の間、敏感だから、舐められて、感じてるんだ？ もう正義のリーダーとかじやないし、お尻舐めで、」

「いっぱいアヘアヘ、声出しちやつていいんだよ。れる、れる♡ このまま緩んだお尻の穴に舌を潜らせて、ん、んふ」

「アナルをたっぷりとかき混ぜていくね。ぢゅぶぢゅぶ♡ んふ、だんだん舌を中心へ、中へ潜らせて、お尻の穴を拡張しながら、ぢゅぶぢゅぶツ♡」

「それじやもつと奥へ、舌が半分以上、入っちゃつてるし、んじゅぶ♡ 激しく舌で混ぜ混ぜするからあ♡ センパイのメス声、もつと聞かせて♡ じゅぶぶツじゅぶぶツ♡ んふ、そうだよお、その喘ぎだよ♡」

「お尻をいやらしくぶりたくつて、はあはあ、エッチな声♡ アナルをベロでほじくられるのも、すっかりクセになつちゃつたつてカンジ？」

「あふ。もうすっかりほぐれたから、アナル舐めはおしまい♪ ジヤ、アタシのふたなり極太チンポを肛門にあてがつて思い切り、んんんツ♡ 挿入していくし♡ んお、んおお♡」

「一気に奥まで突つ込んでえ♡ はふ、ずっぽりと呑みこんじやつてる♡ 結構、ぶつといチンポなのに、スマーズに入つて、さすがはセンパイのアナル、いやらしく拡がりすぎ♡」

「このままピストンしまくつちやうよ♡ くふう、メス穴ちゃんのお尻まんこ、マジいい、良すぎだしツ♡ この締めつけに、絡み、もう完全に性処理用に改造されたアナルつて力ンジ？」

「センパイとケダモノみたいにセツクスする」と、画面の前のみんなも、ちやーんと見ててね」

「センパイもメス穴人間になつたところを、お披露目だし」

「はあ、はう♡……んつんん♡……はあ、はあ、はあ、はあつ♡ んう、んうう、こうやつて、もっと奥まで突き込んで、軽くアナルイキさせたげるから♡ ほらツ、イッちやえ♡」

「お尻でイつて、みんなにメス堕ちっぷり、見せてあげて♡ ほらほらほらあ♡ ほらあツ♡ イケ、イケイケイケ♡ イッちやえ♡」

「バツクから動物みたいに犯されてるとい、見られてアクメしちゃえ♡」

「ほらあ——ツ♡ お尻でイッちやつて♡ くふ、これでトドメだからツ♡ オチンポで気持ち良くなっちゃえ♡」

「んつうう——ツ♡」

「あは、下半身、ぶるぶるつて震わせて、きちんと気持ち良くなれたね、センパイ♡ じやあ、アタシもそろそろ、ん、んツ♡ 出すよ♡ んふ、中に出して欲しいみたいだけど、それはお預け♡」

「その代わり、んん、オチンポ引き抜いてえツ、センパイにぶっかけしてあげる、んふう、で、出る、オチンポからザーツ、ぶちまけひやう♡」

「んお、んつおお——ツ♡」

「あ、あふ、まだ出るよ」

「センパイのお尻も、背中も全部、アタシの精液で白く染めてあげるから。センパイの身体、アタシのオチンポミルクで、ドロドロだし♡」

「それじゃあ、センパイ。射精したオチンポ、舐めて、綺麗にして♡ うん、そう、こっちを向いて」

「アタシが、んしょつと、ひざまずいてあげるから、四つん這いのままで、動物みたいにおしやぶりして。はふ、そ、そうだよ舌を這わせて、根元から先端まで綺麗に舐めて、精液の残りを舐め取つていつて♡」

「そうそう、れろれろつて、カリの張りだしも、裏筋も舐めて最後は唾液」と、じゅるるつて、すすつてね。ん、んふ。先っぽから、お汁が溢れてきてるから。これも全部飲んで。ん、ん♡」

「ふふ、迷いなくお掃除フェラできて、センパイ、エラい、エラい」

「ちやーんと頭撫でて、褒めてあげる。はい、なでなで、おりこうだね♡ あんツ、褒められたからつて、そんなに一生懸命、アタシのオチンポ、しゃぶつちやダメ♡」

「褒められて、そのはしゃぎっぷりったら、まるで本物の犬みたいだし。センパイは人間でしょ。メス穴人間なんだから、忘れちゃダメ」

「ね、カメラの向こうのみんなも、センパイの堕ちっぷり、ちゃんと楽しんでもらえるかなー？」

「アタシはこのまま、メス穴ちゃんの口まんこを楽しんじゃうよ。メス穴ちゃんの丁寧な奉仕フェラで、またビックキビキになつてきだし♡」

「もちろん、オナネタしてくれて全然OKだよ♡さ、センパイ、口をあけて、喉の奥に思い切り、アタシの勃起チンポ、つっこんじやうよ♡んふツ♡」

「センパイの口、気持ちいい。入れるときに唇が擦れるのもだし舌のざらざらが絡んで、喉の奥が先っぽに当たつて、コリコリしてこのままセンパイで、イラマチオさせてえ♡」

「息できないかもしねないけど、もうアタシ、我慢できない♡」

「腰が、んひ、んひい♡勝手に動いて、センパイの上の口い、おまんこ遣いしひやう、んお、お」

「も、もうツ、出すよ♡」

「アタシのオチンポジュース、身体の中からどんどん溢れてきて、ふたなりチンポの内側を、あ、上がつてくる、お、おう」

「出る、もう出ひやう。どろどろ熱々の、濃厚なミルク。センパイの、メス穴人間ちゃんの、お口マンコに生射精しちゃうし♡」

「あ、あううーツ♡」

「ん、んふ。出てる、ほら飲んで、アタシの生臭いザーメン」「全部メス穴ちゃんに飲んでほしいの」

「そうよ、喉を鳴らして、こくこくつて、飲み干して」

「う、ううツ、溜まった精液、オチンポから、じゅるるるつて、吸いあげられるの、たまらなく、気持ちいい」

「みんな、見て。イラマチオで生出しした精子、メス穴センパイが飲んでくれてるし♡センパイ、アタシが出したふたなり汁、ぜーんぶ飲んじゃつた」

「くふふ、すつごい優秀。すっかりメス穴人間に堕ちて洗脳改造、大成功♡ そうだセンパイに、ちゃんとザーメンのご褒美あげなきやね」

「さつきはぶつかけだつたけど、やつぱりアナルに直接、ふたなり精液欲しいよね。それじやカメラで、センパイのアナルをドアップに写しまーす」

「もじもじしちやダメ。センパイはメス穴人間のお手本なんだから、ちゃんとアナルをみんなに見せてあげないと♪ こんな風に、男の子も女の子も、みーんな、組織のメス穴に改造してあげる♡」

「手で少し開くだけで、もうデカマラを迎える準備い、バツチリすぎだし♡」

「じゃあ、このままアタシとセンパイのケダモノファックの続き、行くよお♡ んうし、一気に奥まで入っちゃつたあ♡ お、おふ♡」

「ふたなりピストン開始い♡ センパイのおまんこ、ハメハメしまくっちゃいまーす♡ 「センパイもいっぱい喘いで、メス声聞かせて♡ むしろメス穴人間なら、無様なよがり声、みんなに聞かせる義務があるんだよ」

「ほらほらあ、アナルの底お、S字結腸まで、かき回しちゃうからツ♡ はあ、はあ！……あ、んあ♡ ……ん♡ んん♡ ふあつ♡ !!……ハアツ、ハアツ♡ ふうつ♡ !!……はふ、ん♡ ……ハア、ハア♡ ハアツ♡ !!」

「あは、結構、アヘ声、いいカンジじやん♡ そう、そうツ♡ メス穴ちゃんらしい、マジでいい鳴き声だし♡ 涎垂らして、もつといやらしいメス悶え♡ 聞かせて♡」

「ケツマンコもだいぶ濡れてきて、くふ、んふ、中でにゅるにゅるつて、つるつる腸壁が絡んできて、はふ、最高の名器だし♡ 極太チンポを咥えた肛門からも、だらだら透明なお汁漏らしてる」

「くすす、これがセンパイのラブジュースなんだ。興奮したら、どんどん愛液溢れて、もつとお尻でよがつちやえるよ♡」

「メス穴人間のレベル、ガンガン上がりまくって、どんなぶつといふたなりでかき混ぜられても、アクメしまくっちゃえるね」

「あ、あふ、やつぱりセンパイにケツハメえ、マジ昂ぶる、昂ぶりすぎだし♡ 昔から知ってる大好きなセンパイ、立派なセンパイが、お尻貫かれて、メス乱れして、またいやらしくアクメつ、キメちやうんだよね♡」

「ああ、センパイのイクところ、想像しただけで、アタシの中で、ザーメンたぎる、熱々に煮えたぎって、お腹のあたり、溶けちゃいそう。ん、んう♡」

「ぷりつぷりの精液、ふたなりタマタマの中でえ、たっぷり出来上がりまくりで、溜まりまくつて♡ アタシの奥でぐつぐつ沸騰して、センパイのお尻まんこに、びゅつぐびゅぐ出せるの、楽しみすぎい♡」

「ドロドロのマグマみたいなチンポミルク、射精されたら、もうメス穴ちゃん、イッちやうね。ありえないほどのアクメしまくりで、壊れちゃうかも♡」

「ほら出すよ、お、んお、出すからね♡」

「ぶりゅつぶりゅの、濃厚なザーメンんんツ♡ チンポ先にまで上がってきてえ、センパイの中にぶちまけちやうーツ♡」

「おっほおーーツ♡♡♡」

「……あ、ああ。あはあ、メス穴ちゃんも、ケツアナルで、しつかりイケたみたいだね♡
以前のセンパイだと考えられないぐらいのメス堕ち♡ みんなに、しつかりと見てもらえて良かつたね♡」

「精液貰つたら、メス穴人間らしく、お礼言わないとね」「それがマナーだし♡ さ、お礼、言つて。出していただいて、ありがとうございます♡ つて」

「くふふ、お礼ちやーんと言えたね。じや、もっと大きな声で、みんなに聞こえるように、ありがとうございます♡ つて、言つて」

「その間に、ご褒美代わりにツ♡ 激しくピストンして、中にも、外にも出してあげるから♡ お尻のハメ穴も、もっとぐちゅ混ぜして、たっぷり出してあげるから。んう、んううツ♡」

「くうう！ んふう!! ……んあ♡ ふあつ!! ……んつ、んあつ、はう……はあ♡ はう……ん♡ ……あ、あつ、あー♡ ……ふぐう♡ 中に出した精液、ローション代わりになつてすごい滑り、いい、いい♡ 気持ちよすぎい♡」

「また出すからね、今度は外にぶちまけて、メス穴ちゃんにザーメンでお化粧してあげる♡ 出る、出るーっ。んふうーっ♡」

「さ、ぶっかけしてもらつたら、ちやんとお礼言つて♡ そうだよ。メス穴遣いされたら、感謝の心。これからはアタシだけじゃなくて、戦闘員さんや、他の一般のみんなにも遭つてもらう、公衆便所みたいな、メス穴になるんだから♡」

「ん、んお、直腸が裏返るぐらいアナルをハメハメして前立腺も壊れるぐらい擦つてあげる♡ あ、あ、また精液上がってきて、ふたなりチンポから溢れる♡」

「センパイのお尻の奥にぶちまけひやうソ♡ んふおーっ♡ 出しすぎて、アナルマンコでセンパイ孕んじやうかも」

「センパイの直腸も、すつごいうねついてきて♡ アタシのふたなり汁欲しがつてる♡」「はふ、そうだ今度は妊娠できるように改造して、もっとメス穴人間化を進めちやおつか、ん、んツ♡」

「あれセンパイ、まだイキたりないつてカンジ？ いいよツ♡ ほら、ほらほらほらあ、ほらあツ♡ 最大限勃起させた、デカマラで、センパイのお尻、ガバマンにしてあげるから♡」

「イケ♡ イケイケ♡ もつとアクメえ♡ 絶頂してえ♡ イキながら、いつてイツて、イキまくつて♡ おバカになるぐらいオーガズムして♡ アタシも出る、ぎつときとのふたなりザーメン」

「出すーっ♡ んつふおおおーっ♡」

「はい、アクメしたら、アヘ顔をみんなに見せて♡ 両手でピース♡ あは、立派にでき
た。これで正義の味方から完全卒業」

「コングラッチュレーション♡ 組織の専用メス穴改造人間のできあがり♡ あの戦隊リ
ーダー『蒼刃』くんも、ここまで洗脳改造されちゃいましたー♪ それじゃ、センパイに
おめでとうのキス」

「んふ、ちゅぶ、ザーメンまみれのセンパイとの、口まんこキス、素敵♡ ちゅ、ちゅば、
んちゅぶ♡ もう、がつつきすぎだよ、メス穴ちゃん♪ ね、後輩ちゃんに、みんな、見
てくれる?」

「もう『蒼刃』の面影なんて全然なくなっちゃってふたなりチンポに完負けしたセンパイ、
かわいいでしょー♪」

「センパイもアタシも、最高の暮らししてるよ♪」

「でも元仲間が二人だと寂しいし、メス穴人間を増やしたいな。ね、いい考えだよね?」
「あ、センパイをメス穴ちゃんに堕としたときに、秘密基地の情報とかモロバレだし。あ
とは襲撃するだけよね」

「このビデオ、もちろん録画だし♪」

「みんなが見終わつたあとぐらいに、組織の怪人全員で基地を攻めてあげるから、見た感
想聞かせてね♪ それじゃ、ちゅつ♪」